

情報開示（ディスクロージャー）

「ディスクロージャー・ポリシー」の精神にのっとり、上場企業の模範となるよう、公正かつ適時・適切な情報開示に努めています。

2004年度以降の課題・目標
ステークホルダーとの双方向コミュニケーションの積極的な実施
個人株主の保有比率の向上

2004年度の実績・進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> アナリスト、ファンドマネージャー向けスモールミーティングを開催 個人投資家向け説明会やIRフェアなどへ積極的に参加 IRサイトのリニューアルにより、コミュニケーションを強化
2003年度20.7%に比べ2004年度20.9%と微増

情報開示に対する考え方

大和証券グループの情報開示に対する考え方は、2004年4月に公表した「ディスクロージャー・ポリシー」のとおりです。財務的、社会的、環境的側面を含む情報の、公正かつ適時・適切な開示に取り組んでいます。

■ ディスクロージャー・ポリシー

- 当社は、株主・投資家、地域社会を始めとするあらゆるステークホルダーの当社に対する理解を促進し、その適正な評価のために、当グループに関する重要な情報（財務的・社会的・環境的側面の情報を含む。）の公正かつ適時・適切な開示を行います。
- 当社は、証券取引法、その他の法令及び当社の有価証券を上場している証券取引所の規則を遵守します。
- 当社は、内容的にも時間的にも公平な開示に努めます。
- 当社は、説明会、電話会議、インターネット、各種印刷物を始めとするさまざまな情報伝達手段を活用し、より多くの投資家の皆様にわかりやすい開示を行うよう努めます。
- 当社は、情報開示にあたって、常に証券市場を担う立場にあることを意識し、他の株式上場企業の模範となるよう努めます。
- これらの精神を実現するために、当社はディスクロージャー規程を制定し、ディスクロージャー委員会の設置や当グループの情報開示の方法等を定めています。

財務的、社会的、環境的側面の情報開示

財務的側面の情報は『年次報告書』『決算短信』『プレスリリース』などを通じて公開しています。さらに、開示すべき情報に社会的、環境的側面の情報を含め、ステークホルダーに地域社会を含め、CSRの観点から「ディスクロージャー・ポ

リシー」に盛り込んでいます。これら、社会的、環境的側面の情報は、主に『持続可能性報告書』で開示しています。

また、グループ本社ホームページ内のIRサイトとCSRウェブサイトを通じて、あらゆるステークホルダーを対象とした開示体制をとっています。2004年にはユーザビリティを高めるため、IRサイトをリニューアルしました。

公正かつ適時・適正な情報開示

■ ディスクロージャー体制

グループ本社は「ディスクロージャー・ポリシー」および「ディスクロージャー規程」をもとに、公正かつ適時・適切な情報開示を目指しています。2004年に広報IR部を広報部とIR室に

分離し、それぞれの役割をより明確にしました。

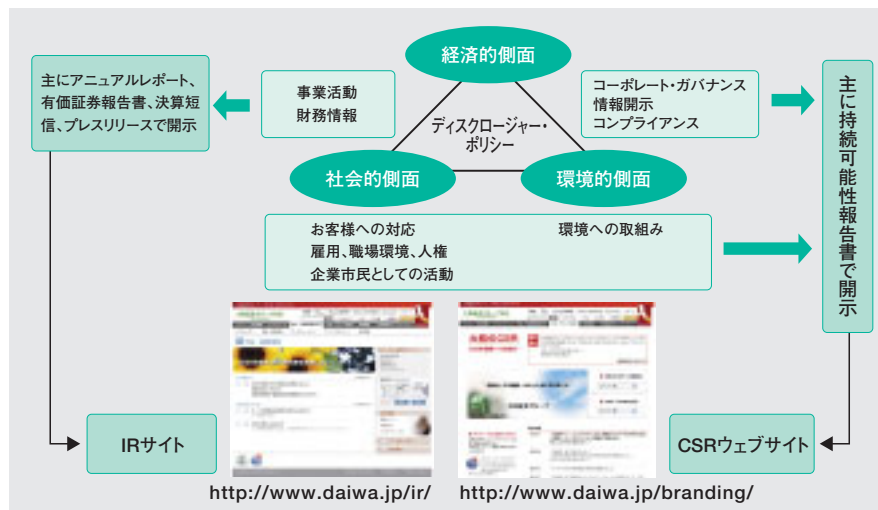
「ディスクロージャー規程」の定めにより設置している「ディスクロージャー委員会」は、各四半期決算期末から決算発表日までの間に、定期的開催のほか、必要に応じて適宜開催しています。

グループ各社では、「ディスクロージャー・ポリシー」の精神を共有するため「経営関連情報管理規程」を制定し、情報の収集体制とグループ本社への報告体制などを定めています。

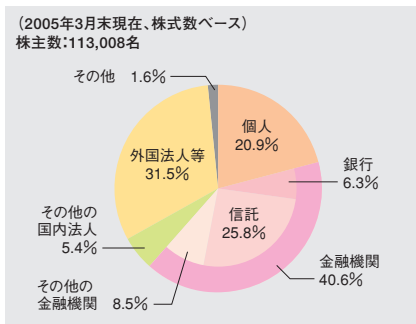
■ 「適時開示に係る宣誓書」の公開

2005年には、東京証券取引所の規程改正により上場企業に「適時開示に係る宣誓書」の提出が求められました。大和証券グループでは、2月28日の提出期限に対し、1月28日に

■ 大和証券グループの情報開示フレームワーク



■ 大和証券グループ本社の株主構成



添付書類とともに提出。「ディスクロージャー・ポリシー」の精神にのっとり、上場企業の模範となるべく提出後速やかにIRサイトで公開しました。

■ ステークホルダーとの双方向コミュニケーション

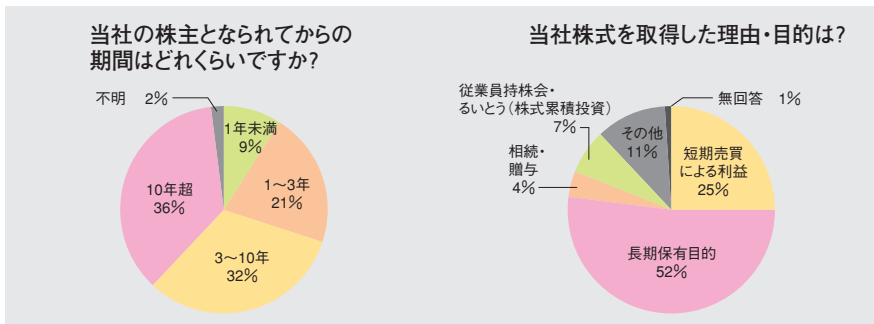
アナリストやファンドマネージャー向けのスモールミーティングを適宜開催しています。2004年9月には「リテール業務（オンライン、SMA）」をテーマに3回開催、35名が参加しました。12月には、三井住友銀行と合同で「投資銀行業務」をテーマに5回開催、76名が参加しました。2005年3月にはグループ本社社長が参加するミーティングを3回開催、26名が参加しました。

2004年9月には、大和インベスター・リレーションズ主催の「個人投資家向け会社説明会」と日本経済新聞主催の「個人投資家向けIRフェア」に参加。また2005年2月には、NPO法人 日本個人投資家協会の「10周年記念フォーラム」にブース出展しました。

■ 株主アンケートの継続実施

株主の声を経営に反映させるため、「株主アンケート」を継続的に実施しています。2004年11月に実施したアンケートには、株主

■ 株主アンケート結果（2004年11月実施）



総数の約9%にあたる約9,600通の返信がありました。

「株主になってからの期間」では、「3年未満」が全体の30%と、前年よりも7ポイント上昇。新たな株主が増えていることがわかりました。「大和証券の口座の有無」では、前年よりも7ポイント多い69%が大和証券に口座を開いています。より多くの株主に大和証券と取引を行っていただけるよう、株主優待制度として、「ダイワのポイントプログラム」の交換ポイント贈呈を行ってきましたが、その成果が現れていると推測できます。

■ 株主総会への出席率と議決権行使の状況

株主総会への出席率を向上させるため、2004年には集中日の3営業日前に開催。出

席者数は372名と、前年よりも約150名増加しました。

また、議決権行使を推進するため、インターネットでも行使できる体制を整えています。さらに2005年には携帯電話による行使も可能にしました。2004年に議決権を行使した株主数は約28,000名と、前年よりも約4,000名増加。行使率は68.5%となりました。

■ 今後の課題と2005年度の目標

2005年度以降の課題は、新たな個人株主づくりです。そのため、大和証券本支店と連動した地方都市での説明会開催なども検討しており、これまで以上に積極的な情報開示に努めていきます。また、株主懇談会を開催することも課題のひとつとして取り組んでいきます。

■ ステークホルダーからのコメント

▶▶ 大和証券グループに期待すること

大和証券グループの情報開示やIRへの取組み姿勢は、投資家だけでなくマスコミからも高く評価されています。しかし、証券市場のさらなる発展を促すべき立場にあることからすれば、求められる水準は非常に高いといつてよいでしょう。全公開企業の範を示すことが証券市場活性化の一助となり、ひいては自らの企業価値を高めることにつながると考えるからです。直接的な影響だけでなく間接的なものも含め、証券業界内における相対的評価に満足することなく、今以上に指導的役割を果たされることを願う次第です。



クレディスイスファーストボストン証券株式調査部
柿元竜二氏